

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和6年度）

1 支援の内容及び効果等（1）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	<p>(1) 自主財源の獲得に向け、関係機関との調整支援や先進的に取り組んでいる地域の情報提供を繰り返し行い、地域が実施したイベントにおいて、出展料の徴収や寄付を得て自主財源の確保に繋がった。</p> <p>しかしながら、地域に提案を続けているペットボトル回収事業や広報紙配布事業等においては、新たな契約締結に至らなかったため、今後もより一層、地域課題の解決に向けた取組を支援していく必要がある。</p> <p>(2) 地域活動協議会の構成団体以外の、さまざまな活動主体との間で連携、協働して取組が行えるよう、地域ニーズと大学・企業・NPO・個人等の強みをマッチングさせ、新たなつながりづくりを実現させてきた『まちづくり交流ライブ』の開催や地域からの相談に適宜対応した。</p> <p>その結果、大学・企業等との連携を深め、9地域において22件の企業等との新規連携協働が実施された。</p> <p>特に、まちセンの働きかけがきっかけとなった、遠里小野地域と共和ニット株式会社との連携事業「高齢者衣料販売・買い物支援」では、高齢者の買い物支援だけでなく、人が集い語らう場の創出にもつながり、利用者からは大変好評で、他地域への広がりを見せている。</p> <p>(3) 組織運営の支援として、新たに2地域の支援事務所でWi-Fiを導入し、全12地域においてWi-Fi化が完了した。また、会計事務に係る支援として地域活動協議会補助金申請システムの導入に向けてシステムの説明や支援を実施した。</p>

2 支援の内容及び効果等（2）

評価項目

- (1) 自由提案による地域支援の支援状況（実績）及び効果等
- (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況（実績）及び効果等
- (2-2) フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況（実績）及び効果等
- (3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
	(1) 『まちづくり交流ライブ』を開催し、9月度『みんなに知ら

B	<p>せたいわがまち自慢』、3月度『災害時に生きるつながりって?』というテーマでグループワークを行ない、地域課題解決に向けた支援を行った。参加者からのアンケートでは好評ではあるものの、参加者数が伸び悩んでいる点が課題である。</p> <p>(2-1)～(3) アドバイザーの指示のもと、2名の地域まちづくり支援員が分担して担当地域を受け持っている。区の担当者と毎朝の朝礼や月2回の情報共有会の開催を通じて地域の状況や支援の進捗状況、支援方針等について確認を行いながら支援にあたっている。また、広報・ICTアドバイザー1名が月2日程度従事し、専門的な支援を実施した。</p> <p>地域の実情に応じた、迅速かつ丁寧な支援ができているが、主担当がいなくとも対応できるよう、アドバイザーや他の支援員との連携が必要である。</p>
---	---

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）の状況及び効果等（5つ以内）

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）にかかる支援の状況及び効果等

評価	左記の理由
B	<p>各地域の実情に応じた「広報機能の強化に向けた支援」「会計事務にかかる支援」を重点支援策とし、次の取組を行っている。</p> <p>(広報機能の強化に向けた支援)</p> <p>広報機能の強化・充実として、デザイン作成ツール「Canva」に関する講座を開催し、イベント等の広報チラシ作成の支援や、SNS講座ではInstagramをテーマに講座を実施し、地域活動における活用方法など実技を交えて実施するなど新たな支援を実施した。また、希望があった地域では、広報・ICTアドバイザーによる『広報紙作成講座&編集会議』を開催するなど、幅広い世代に親しみやすい広報の推進につながった。</p> <p>その結果、チラシデザインの刷新や、Instagram等によるイベント情報発信が行えた。しかしながら、地域活動協議会のホームページを開設していない2地域は、今年度も開設には至らなかった。</p> <p>(会計事務にかかる支援)</p> <p>会計事務にかかる支援については、地域に寄り添った支援により、会計担当者に個別の対応を行っており、今年度より変更となった補助金交付要綱に対応するため、地域の会計担当者に対し、よりきめ細やかな支援を実施した。また、地域の事業会計担当者向けの補助金会計勉強会を実施し、地域の好事例を紹介するなど、補助金を有効に活用するための支援を行った。</p> <p>その結果、事業内容の見直しを行い、事業を継続する地域や、事業の充実・拡充に向けた地域があり、適正な会計事務の執行が進められている。</p>

	<p>加えて、中間精算を実施するなど、事業の進捗状況を把握しながら、事業間流用も含め、迅速に精算報告できるよう、より一層丁寧な会計事務の支援が必要である。</p>
--	---

4 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

評価項目

(1) アンケート調査

評価	左記の理由
B	<p>地域活動協議会を対象に実施したアンケート調査結果では、「まちづくりセンターの支援がニーズに即した支援を実施していると思う」割合が83.3%となった。当初、地域活動協議会の構成団体（約290団体）に対するアンケートを予定しており、目標値を93%以上としていたが、令和6年度はアンケートの対象を地域活動協議会（12団体）に変更したため、当初に設定した目標数値には達していないものの、アンケート調査対象の母数を考慮すると、概ね目標数値に達していると判断される。</p> <p>引き続き、地域の実情を把握し、さらなる工夫を凝らしてニーズに即した支援を講じる必要がある。</p>

5 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	<p>まちづくりセンター独自の取組である『まちづくり交流ライブ』を通して地域活動協議会と大学・企業・NPO・個人等とのつながりづくりに寄与していること、またSNSの活用や新たな広報デザインツールの導入により地域の広報機能の充実につなげることができたことは評価できる。</p> <p>しかしながら、地域活動協議会における役員の高齢化や担い手不足が顕著となっているとともに、地域の自律度に大きく差が表れており、一律の支援ではなく各地域の実情に応じたきめ細やかな支援が必要であるため、各地域に必要な支援を分析したうえで、自律的運営の促進に努めてほしい。</p>

（評価基準）

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。